

日本リメディアル教育学会 関西支部 第15回大会



2024年2月26日(月) 13:00-17:00 於 奈良女子大学

関西リメディアル教育を俯瞰する

プログラム

◇支部企画 シンポジウム

「関西のリメディアル教育を総括する」

小畑 力人 (大阪観光大学 特任教授)

「日本のリメディアル教育開始期の古い話」

寺田 貢 (東京情報デザイン専門職大学 教授)

「日本リメディアル教育学会と関西支部会の活動」

矢島 彰 (東大阪大学 教授)

「関西支部大会・関西支部会員に期待すること
(関西らしいリメディアル教育を考える)」

◇個人研究発表

三井規裕 (桃山学院大学)

「心理的安全性に着目したグループ学習型授業に
関する実践報告」

野波侑里 (大手前大学)

「教育とチュータリングの課題 ～学修サポート
センターの事例～」

◇企業展示

◇情報交換会

会場 大学生協ラウンジ

会費 4000円 (飲食物持ち込み可)

[発表要旨] (三井)

学習者中心の教育を実現していくには「学生が参加する」ための土台を築くことが必要である。協同学習技法による授業実践によって学生の成績、発達等に影響することは明らかになっている。しかし、こうした技法をただ導入するだけでは十分な効果があるとは言えない。例えば、社会問題の解決策を提案するグループ学習型授業を履修した学生に、インタビューを行った結果、発表内容の良かったグループは意見しやすい環境を作っており、メンバーでランチに行くなどの関係ができていた。一方、発表内容が不十分だったグループは議論が対立傾向にあり、対立を避けるため他者の意見を尊重しすぎ、会話量減少の傾向があった。学生の振り返りを確認したところグループ内での安心感や不安感が関連している可能性があると考えられる。

そこで、本発表では、グループ学習型授業においてグループで取り組むワーク教材等を使用し、半期の授業を通じて心理的安全性にどのような影響があったかについて報告する。

[発表要旨] (野波)

大手前大学の学修サポートセンター (以下、OLSC) では、チューターとピアサポーターが学生のサポートにあたっている。サポート内容は多岐にわたり、レポート課題や論文のサポートだけでなく、プログラミングや統計など専門的な内容にも可能な限り対応している。また、近年は授業との連携にも注力し、担当教員と詳細に打ち合わせをしてサポートにあたり、一定の評価を得ている。

しかし、チュータリングについては問題も生じている。OLSCの目標は学生が自己学習をできるようになることであるが、チューターに依存する傾向にある学生は、なかなか本人自身でレポート等の成果物を仕上げるのが難しい場合もある。多様な学生が自己学習という目標に達成するためのチュータリング技法の習得は、スタッフのチュータリング教育の課題となっている。

本発表では、近年の学修支援センターにおけるチュータリングの問題点・課題を抽出し、今後のチュータリング教育について考察する。

